

---

# 優しい人

梅雨子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

優しい人

### 【Nコード】

N8493D

### 【作者名】

梅雨子

### 【あらすじ】

猫のナツフジさんはN家の少年が気になって仕方がないのです。

N少年は御友人の居ない方でありました。

猫である私の眼からもそう映りますように、いつも御1人で居られたのは確かです。

御友人を「つくれない」と申しますと、そこには語弊が生じまして、「つくらない」と云うのが正しいような気が致します。

しかし、やはりそこにも御幣が生じまして、彼の性質上「つくれない」と申した方が、矛盾は否めませんが、そちらの方が正しいような気も致すのです。

私はと云いますと、N家で食を頂く野良猫ですが、野良猫とは云い難いほどにN家では良くお世話をして頂いております。

N少年と出会いましたのは、一昨年の晩秋を迎える時期でありました。

彼はやはりその時も御1人で居られ、少し不似合いに感じます、頭よりもひとまわり大きい黒いランドセルを背負っておられました。

その時の私には余程印象的でありましたのでしよう、彼の黒い瞳は背筋の凍る冷たい光をもっております。

その当時から、人間と「仲良く」というのがお嫌いのご様子で、度々近所の子供が仲良く「仲良くして」おりますと舌打ちをならされておりました。酷い時には、その者達を地に沈めるようなことも何度か。

\*\*\*

「これ、友達だから、」

今年の冬で十をお迎えなさるN少年は、初めて「御友人」を家に招かれたのであります。

私は驚きの余りに、家政婦の横川さんから頂きました煮干を口から落としてしまいました。

しかし、まあ、それは何と申しますか、「御友人」と云う関係とは少し可笑しい気も致すのですが、そこにはやはり、「御友人」というような言葉しか関係をあらわせないようなものなのです。

その御友人とは、茶色の毛を持ったまだ幼い子猫でありましたので御座います。

N少年がその子猫を拾ってきたことになるのですが、その子猫の状態から察するに、恐らく近所の子供にでも虐められていたところをN少年が助けたのでしよう。

少し美しくまとめたような気が致しますが。

私は口から落とした煮干を啜えなおし、ハルジオン春紫苑が綺麗に咲く庭を眺めました。

\*\*\*

「坊ちやま、その子猫飼われるんですか？」

横川さんの問いにN少年は、そうだよ。と短く返事を返したただけで後はご自分の部屋に入ってしまったわりました。

「坊ちやまが友達だと仰るから何事かと思えば、子猫だなんて。ねえ、ナツフジさん」

横川さんは私の名前を呼ばれ、「ナーゴ」と返事を致しましたが、そこには横川さんの姿はもう御座いませんでした。

何やら、N少年の初めての「御友人」が家に来たものですからご飯やらを慌てた様子で買いに行かれたようでありました。

塀の上で横たわる私の鼻先を夏のおいを感じさせる風が、通り過ぎたのでありました。

\*\*\*

暫くして、その茶色の子猫は「缶吉」と名付けられました。ご飯として与えられていた「ツナ缶」が大好物だったので。どこことなく趣味が悪うような感じはするので御座いますが、N少年が缶吉に時折みせる、温かみを含んだ優しい眼は少しも悪うような感じは致しませんでした。

私が一昨年の晩秋に見た、凍るような眼もいつの間にか見かけなくなっただけでありました。

何も無い夜空に星を散りばめたような、

何も書かれていないノートにありったけの字をつめたような、

光を通して黒いビイ玉に、白い筋をいれたような、

缶吉は兎に角、N少年の心に居場所を作ったのは確かでありました。

\*\*\*

ギョウジユ  
擬宝珠ギョウジユが花を咲かせた晩夏の頃でありました。

缶吉がN少年にサヨウナラをしましたのは。

元々身体が弱かったのか、何だったのかは、事実を私は分かりませんが、少なくともその小さな命を落としたのは事実でした。

何をそんなに急いだのでしょうか、何をそんなに急いでしまったのでしょうか。

まだ何も無い、夜空は小さな星を大切にすることはできなかったのでしょうか。

まだ何も書かれていない、ノートは字をつめることはできなかったのでしょうか。

光を通して黒いビイ玉は、やはり何も通さなかったからなのではないか。

いいえ、違いますでしょう。

\*\*\*

N少年は、また、前の眼をするようになられました。  
ツナと居た時間はそこには無かったように、静かに、激しく、その  
眼を戻されていきました。

仲秋に入った頃には、横川さんが春の間に植えました孔雀草クジャクソウが立派  
な花を咲かせ庭を彩りました。

缶吉を埋めた土にも孔雀草クジャクソウは覆い被さり、そこにあつた寂しさは和  
らいだような気が致しました。

N少年の心には、その孔雀草クジャクソウは咲き誇らず、土と缶吉だけがあるよ  
うな風に思えましたは私だけでありましたのでしょうか。

\*\*\*

「学校にカンキチって呼ばれてる生徒がいるんだよ、」  
N少年の口からそれを聞いたのは、N少年がランドセルから学生鞆  
へと移つた中学生の時でありました。

他の誰に云つたわけでもなく、恐らく私に申されたのでしよう。

後は、口を閉じて視線をどこか彷徨わせながら意識を手放した様子  
でした。

只、目を閉じるN少年の顔を私は一生忘れないことだと思ひます。  
そうして、私も意識を手放し、永い眠りについたのでした。

\*\*\*

優しい人

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8493d/>

---

優しい人

2010年12月31日18時40分発行